

1 開会挨拶および議題説明

校長より、土曜日の忙しい中駆けつけていただいた委員への感謝が述べられた。

議題は、前回の研修会、本日のオープンスクール、その他今後の事項を含む情報交換とされた。

2 オープンスクールの感想・意見等

① 出席状況（委員からの質問を受け）

- オープンスクールには中学生が来校した。
- 途中の集計では、保護者と生徒を合わせて 400 数十名が来場し、保護者が約 180 名、中学生が約 200 数十名であった。
- 最終的な来場者数は、昨年よりも少し多いか同程度という感触である。
- 副校長が担当した相談コーナーは行列ができ、なかなか途切れなかったため、昨年よりは良い状況で期待できる。
- 受付の教員の話として、当初は別の学校を選んでいたが、本校に変更した生徒がいたとの情報があった。
- ただし、全体として生徒数は減ってきているため、募集人数に対して懸念が残る。
- 学校の雰囲気良かったことが、良い印象に繋がった可能性がある。

② 委員からの授業見学の感想

- 午後 1 時 5 分からの C2(製図)を見学した。中学生 6 名程度、保護者 2 名程度が参加していた。
- 先生による進路説明（様々な企業名、国公立大学受験など）が非常に良かった。

③ 委員からのオープンスクールに関する意見

- オープンスクールを初めて体験したが、工業系らしいものの、もう少し実技・実習的な授業を見たかった。
- CAD/CAM 実習において、生徒が個々で同じものを作るのではなく、1 クラスで協力して一つのものを作り上げるような活動があれば、より面白いかもしれない。
- 全体的に生徒の数が少ないと感じた。
- 学校の雰囲気については、すれ違う人に「こんにちは」と挨拶をする生徒が多く、日頃の先生方の指導が良いと評価された。

3 その他意見・情報交換等

① 近隣の高校との比較

- 中学生が本校と近隣の高校を比較検討している事例があった。
- 近隣の高校は「会社事務止まり」のイメージがあるのに対し、工業高校は専門分野への就職先が幅広く、人気があるという話を聞いた。

② 企業連携と仕事体験

- 企業（顧客）との話の中で、現在人材不足にあり、青年会議所などで生徒向けの仕事体験を実施したいという要望がある。
- 具体的な体験アイデアとして、花束制作や、クレーン作業のように目視で鉄や木の重さを推測するクイズ形式の企画が検討されている。
- 生徒が興味を持つような、ゲーム感覚でできるレクリエーション要素があれば良い。
- 学校側としても、地域連携として 11 月 25 日の土曜日に六合コミュニティにて、小学生向けに出前授業を行う予定である。昨年度は機械科（金属折り鶴製作）と情報電子科（ドローン操作）が担当し、特に金属加工は持ち帰りが可能なこともあり大人気で行列ができた。今年度は建築科が主催する（木材加工/ペン立て製作）と、電気科が主催するじゃんけんゲームのような体験型教材を持参する予定である。

③ 高校授業料無償化と学費負担

- 本校（県立）の生徒が収める授業料は実質無償である。ただし、公立高校でも私立高校でも、授業料が無償化の基礎額を超過する場合は、その超過分は保護者が負担する必要がある。
- 高校生の学費の中で、現在最も金額が大きいのは修学旅行の積立金である。

- バス代の大幅な値上がりのため、令和 9 年度からは修学旅行の積立金を現在の 10 万円から 12 万円に値上げすることを検討している。
 - その他、ノートパソコン（Chromebook 約 6 万円）や作業服、部活動の道具、移動費、参加費などは別途かかる。
 - 生活保護を受けている世帯の生徒に対しては、こうした費用が公費で賄われる制度があるが、本校での該当者は少ない状況である。
- ④ 部活動における教員の負担と指導員の導入
- 高校においては、中学校のような教員の負担軽減を目的とした部活動の制限（週 2～3 日）はまだ進んでいない。
 - 教員の時間外勤務時間オーバーの主な要因は部活動であり、改善の必要性がある。一方で、本校は部活動が盛んな学校であり、部活動指導に意欲的な教員も多く、一律に制限することが難しい。
 - 今後、部活動の顧問を拒否する教員が増える可能性がある。
 - 部活動の手当について、県教委による増額が望まれる。
 - 生徒数の減少に伴いクラスが減り、教員も減ると、部活動の数も減らさざるを得ない。本校は現在 30 以上の部活動を維持している。
 - 顧問が不在となる期間（育休等）に対応するため、部活動指導員（非常勤講師など）の登録制度を進め、フォローできる仕組みを整備する必要がある。
- ⑤ 進路状況
- 3 年生は 199 人。就職希望者は 127 名（約 6 割以上）で、そのうち 120 名がすでに内定し合格している。公務員は 9 名が志望し、5 名が内定（袋井市役所、掛川市役所など）。進学においては、日本大学に指定校推薦で 15 名程度が希望。静岡理工科大学や神奈川大学などの大学への進学希望は 23 名程度である。
 - 共通テストを利用し国公立を目指す生徒は 2 名と少数派である。
 - 専門学校への進学も進んでおり、静岡のコンピューター系専門学校では 15 名程度が内定を得ている。
 - 求人倍率は現在 21 倍であり、求人数の増加（400 社以上）が続いている。生徒は主に大手企業など約 60 社に応募している。
 - 採用活動では、生徒が面接練習を動画で撮影し、表情や苦手な質問への対応を確認するなど、現代的な指導が行われている。
 - 来年以降、生徒数が 144 名、157 名と減少することが予測されており、企業からの求人に対応しきれなくなる懸念がある。
- ⑥ 今後の教育内容と地域の需要
- 地域産業の需要に合わせて学科を再編する必要がある。例として、熊本では半導体産業に合わせた新学科創設の動きがある。
 - 地元では建設業の需要が非常に高い。
 - システムインテグレーター（製造業における AI ライン構築など）に対応できる人材育成も視野に入れる必要がある。
 - 現場では機械と電気の両方の知識を持つ人材が求められている。
 - 以前、情報技術科に重点を置いた結果、情報処理のレベルが現場対応に不十分になる懸念が生じた。今後は、電気と機械の知識を併せ持つ人材育成に注力すべきである。
 - 企業で育て上げるためには、教えられたことを素直に受け止め、自分のものにできる「素材」としての生徒を育てていくことが重要である。

4 閉会と次回予定

次回日程は、11 月 15 日（土曜日）午後 2 時より実施する。都合の良い時間に来校し、見学後に御意見等を校長まで頂く予定。